令和元年度第２回　清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体 会議録

１　開催日時　令和元年 10 月 25 日（金）9 時 30 分から 11 時 45 分

２　開催場所　中清戸地域市民センター　第１会議室

３　出 席 者　出欠席名簿の通り

４　配布資料
- 次第
- 事前資料１　清水さんの事例を通じてわかったこと
- 事前資料２　協議体設置要綱（簡易版）
- 当日資料１　地域別高齢者一覧
- 当日資料２　アイディアシート

５　次第

（１）　開会

鍵和田より、資料確認と欠席者の確認を行う。

（２）　前回振り返り

長谷川委員長より、前回会議の振り返りを行う。地域で活動している活動団体や円卓会議、シニアクラブ、各種サロンの情報が整理できていないこと、今後は第１層協議体と第２層協議体、地域ケア会議との連携が課題になることついて話あり。

また、鍵和田より、事前資料１について説明。困りごとを抱える清水さんに対し、第１層協議体委員がそれぞれの立場でできることを整理したシートであることを共有。赤枠の内容は、「よくわかっていないこと」「検討が必要なこと」となっており、継続的な検討が必要な課題を整理。

（３）　第１層協議体の目指すことについて

鍵和田より、事前資料２を用いて説明。

要綱上、協議体の役割は、①自立した日常生活の支援、②要介護状態となることの予防、③要介護状態等の軽減・悪化の防止等を通じて、❶介護予防サービスの充実を図る、❷地域における支え合いの体制づくりを推進する、とされているが、①～③の項目に関する実情把握は曖昧な点も多い。

「介護保険制度だけでなく、有償の助け合い、民間サービス、おたがい様の関係等の様々な力が整っており、市民１人ひとりがその人らしい生活を送ることができる」という目指す姿に向かい、実情を知り⇒気づき⇒考えることで、変化・多様化する生活課題の解決に向けて絶えず検討をしていきたい。

（４）　清瀬市内の状況について

◆　市内の状況を知る①（高齢者数、高齢化率、独居高齢者数等）

前回協議体において、個別事例と統計データ活用により地域の困りごとを共有して検討する必要性について指摘あり。清瀬市と調整の上、丁目単位で高齢者数

や高齢化率、要支援・要介護認定割合、通所・訪問サービス利用者等の数値を一覧表としてまとめ、資料配布（会議終了後に回収）。

- 高齢化率は、市の平均値に対して平均値以上の高い割合を示す地域（主として団地など）もあり、様々。
- サービス利用者の内訳では、訪問サービスと通所サービスの利用割合が地域によって異なることがわかる。
- 高齢化率（後期高齢化率）の高さと介護サービス利用者の多さが結びついているとはいえないが、独居の方については介護サービス利用者が多い傾向あり。
- 高齢化が高い地域の方が、体操教室等が活発に行われることもあり、高齢化率が高いからといって元気がない地域であるとはいえない。（逆も同じ）
- 地域で必要とされている取り組みを考える際には、「身寄りのいない人」「近くに親族のいない人」「訪問介護サービスの内訳」「介護保険制度で対応できないニーズ」についても目を向ける必要あり。
- 災害時に避難が必要な方への対応を考える仕組みとして、清瀬市避難行動要支援者登録制度の仕組みあり。優先順位については、市で整理を行っている。

◆ 市内の状況を知る②（第 2 層協議体のこと）

各圏域での第 2 層協議体の取り組みについて共有するため、各生活支援コーディネーターより資料を用いて報告あり。

- 信愛エリア（松山、竹丘、野塩、梅園）
  - 2018 年 5 月頃より準備を行い、「きよせエンジン」という名称をつける。
  - メンバーは、障害者支援施設職員や学校支援コーディネーター、大学生、地域住民、民生委員、自治会連合会の方等、約 10～15 名。
  - 最近の様子としては、圏域内の障害者支援施設のおまつりに出店し、活動するための資金づくりを行った。
  - 協議体では、思いを共有し、形や結果につなげたいと考えている。
  - 今後は分科会（カレンダー作成、既存活動サポート）を設定する予定。
  - 取り組む大きなテーマは「交流・つながりづくり」
- 社協エリア（元町、上清戸、中清戸、下清戸）
  - 「いきいき会議」という名称で月に 1 回ほど集まり、話し合いをしている。
  - メンバーは、ボランティア、高齢者施設職員、民生委員、健康づくり推進員、地域づくりの会参加者等、約 15 名。
  - 話し合いの中では、参加者が所属する会や活動の近況報告や情報共有をする他、課題に応じてプロジェクト会議を発足しており、今は高齢者が安心して外出するためにトイレやベンチに関するマップづくりを行っている。
  - 仕事や趣味活動で得た特技や知識、経験等を持ち寄って力を発揮しており、協働しているのが特徴。
  - 活動の様子については、生活支援コーディネーターの活動ブログについて

掲載中。

- 清雅エリア（中里、下宿、旭が丘）
  - 高齢化率が高いエリアから協議体づくりに取り組み始め、介護保険の勉強会や地域に何が必要か話し合いを重ねる中で「旭が丘みんなのサロン」を発足。2018 年 10 月より活動を開始。
  - メンバーは、施設ボランティアや体操の自主グループ参加者等であり、女性が中心。
  - サロン参加者をスタッフにお誘いすることで輪が拡がっており、「面白いことをしたい」「一緒に楽しみたい」人が集まっている。
  - 活動は、月１回のサロン活動と月１回の打合せを実施。
  - 企画する中では、シニアクラブのフラダンスやコーラスサークル等に協力を仰ぐなど、知っている知識を共有し、アイディアを出し合って取り組みを進めている。
  - 会場は旭が丘団地集会所で行っており、広報は自分たちで工夫をしながら自主的に実施。
  - 参加者同士での情報交換は、必要な知識や情報を考える場になっている。

（５） 意見交換「様々な力の集まる第１層協議体で取り組めたらいいと思うこと」

時間の関係で全体での意見交換は実施せず。委員より一言ずつ発言いただいた他、アイディアシートの回収により、意見を把握。

- 他地域の取り組み等、情報共有をすることの重要性を感じた。机上で話し合った内容を現場に落とし込むことが重要。
- 広報紙などは公共の物が中心となっている。外部の資源など、もっと使える資源があると感じる。調査し、情報を整理する必要がある。
- みんなで考えることが大切だと実感。その重要性をどのように地域と共有していくかは課題。
- 生活支援コーディネーターの圏域を超えた連携などの必要性を感じる。第１層協議体の役割に期待したい。
- 直接ケアに関わる、仕組みづくりに関わる等、違う立場の人や機関が参加する協議体だとわかった。それぞれの分野の強みをわかり合いながら進められるといいのではないか。
- 引きこもり気味の高齢者は市内にどれくらいいるのか？そして、どう見つけていくのか？民生委員や行政、地域のキーパーソンと一緒にその仕組みを考えていくことも重要。
- 支援が必要だが、その存在をつかみきれていない人を把握し、どのように地域に出てきてもらうかの方策が重要。
- 自治会とシニアクラブがタッグを組むことで生まれる強みがあるのではないか。
- シルバー人材センターでは、退職後に夫婦で会員になられる方もおり、高齢者の社会参加につながっている。
- 地域で高齢者の数が増えていく中、一機関の活動には限界があり、連携が重

要だと改めて実感。

- 地域ケア会議とのすみわけというよりも様々な視点からの地域課題の抽出ができる仕組みをつくることが重要。様々な団体や協議体があるため、その内容を可視化することで体系を明確化できるといい。
- ３ヵ所のエリアで素晴らしいことを行っているが、ネーミングが統一されるとさらに良いのでは。そうすることで、他のエリアには負けない、協力したい等の気持ちが沸くのでは。
- 小・中学校のクラス会、同期会開催の幹事支援や場所提供などにより高齢者情報を収集する等、６０歳以上の方にあらゆる方向から地域への参加を働きかける。
- 小さな活動も含めて、すべての活動を地域別、内容別に一覧にすることで連携もしやすいと思う。
- 第２層協議体は協議の場なのか、活動主体なのか考える必要あり。
- 考えるテーマによっては、小学校区などのより狭いエリアで検討する必要あり。
- 引きこもり気味の高齢者については、その背景に喪失体験などがある場合あり。楽しい場に参加することが難しい方もいるので、こちらから訪問することも検討する必要がある。
- 第１層協議体については、顔や名前がつながり、関係性をつくる場ではないか。それぞれの活動や課題を共有し、それぞれの強みを確認できるといいのではないか。

（６） その他

◆ 協議体議事録の承認方法について

議事録の承認方法について鍵和田より提案あり。今後は、議事録配布後２週間を加筆修正期間とする。加筆修正の完了後は、第１層協議体のホームページ上にて情報公開を行う。

（７） 閉会

次回開催は１月１４日（火）１０時～１２時　@コミュニティプラザひまわり